



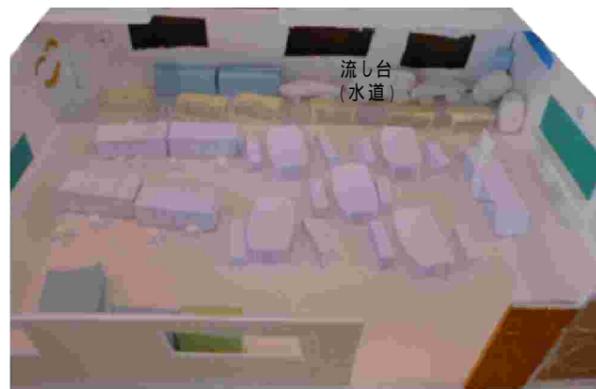
おつかれさまでした。
 楽しそうで、防災もしっかりと考えた教室づくりのアイデアがいっぱいあり、うれしく思いました。
 みなさんが、大槌町子どもたちだからこそ、できたことだと思います。
 困難を解決する力が感じられました。
 こうした活動を、全国子どもたちにも知ってもらいたいと思っています。

山形大学 地域教育文化学部 教授 佐藤 慎也

家庭科室



色とりどりの丸いシールでかざられた黄色や青色の壁（かべ）が目をはききます。壁のすべてには色をつけないことで、効果的なアクセントカラーのデザインになっています。窓（まど）も、いろいろな形にデザインしてくれました。背もたれのあるイスやテレビがあって、明るくて楽しそうな教室になっています。



テーブルやイスは、形のちがうものを、たくさん作ってくれました。ベンチのようなイスは、グループで行う家庭科の授業では便利でしょうね。サンプルになかった流し台は、紙ねんどで作ってくれました。ドアも折り紙で色をつけています。なにが必要かをよく考えて、たくさんの工夫をしてくれた作品です。

特別授業「未来の教室を考えよう」（大槌町）

こんな教室が あたらしいな！

大槌町の小学校5年生による
ワークショップの記録
[2012(平成24)年10～11月]

大槌小学校 安渡小学校 赤浜小学校 大槌北小学校

2013(平成25)年4月

日本ユニセフ協会は、被災地の復興に向けたプロセスに子どもたちが参画し、子どもたち自身の声を取り入れられた「子どもに優しい復興」の実現に向けて、専門家と連携しながら技術的支援とアドボカシー活動を行っています。

こうした復興への子ども参画をより体系的に推し進めるために、住環境・まちづくり学習等の分野で活躍する、山形大学地域教育文化学部の佐藤慎也教授と、こども環境学会『子どもが元気に育つまちづくり～東日本大震災復興プラン国際提案競技』において「子どもと築く復興まちづくり」を提案し最優秀賞を受賞した竹中工務店と提携して活動しています。

〔監修〕 公益財団法人日本ユニセフ協会 原田 唯（岩手フィールドスタッフ）

〔編集・執筆〕 国立大学法人山形大学 教授 佐藤 慎也（地域教育文化学部）
 株式会社竹中工務店 岡田 慎（プロジェクト開発推進本部）

〔授業サポート〕 国立大学法人山形大学 学生
 三浦 奈穂美、今井 梨渚（4年）
 奥山 実穂、熊谷 美保、桑原 幸穂、齋藤 康貴、佐藤 隆一郎、藤原 未森（3年）

〔主催者〕 公益財団法人 日本ユニセフ協会

〔実施者〕 国立大学法人 山形大学
 株式会社 竹中工務店



力と気持ちを
あわせて
夢をカタチに

2012(平成24)年の10月から11月にかけて、大槌町において特別授業「未来の教室を考えよう」が3回にわたって開催されました。
 参加してくれたのは、東日本大震災で大きな被害を受けた大槌町の仮設小学校(大槌小学校・安渡小学校・赤浜小学校・大槌北小学校)の小学校5年生の約90名。
 自分たちの理想の教室を考え、グループごとに協力して模型をつくりました。
 この特別授業は日本ユニセフ協会が主催。山形大学の佐藤教授が指導し、山形大学のお姉さん、お兄さん(3・4年生)と竹中工務店のオジサンが、お手伝いしました。

第1回

2012(平成24)年10月24日(水) 10:20~12:15

体育館・教室

体育館に集まって、芦澤先生が佐藤教授他を紹介してくださいました。
 それぞれの教室に戻ってから、特別授業のウォーミングアップとして、3つのテーマでお話をききました。

防災・耐震の空間づくり
(竹中工務店 岡田 慎)



デザイン椅子の居心地体験
(山形大学 佐藤 慎也)



人体寸法と教室空間の実測
(山形大学 三浦 奈穂美)



18のグループごとに「つくりたい教室」と「教室づくりの基準(必要なもの/不要なもの)」をみんなで考え、まとめました。

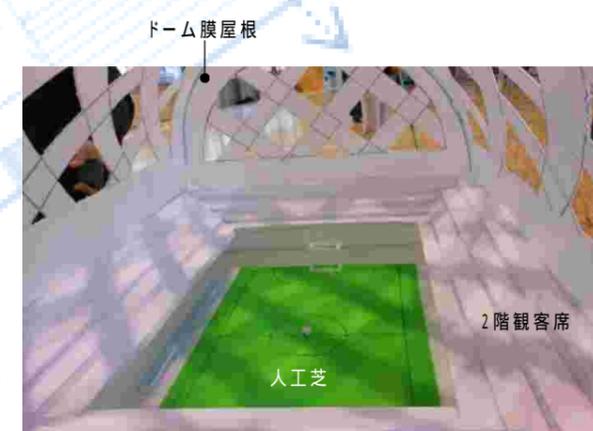
図書室



教室のまんなか木があります。でも本だとは、ありません。え?と思ったけど、本は書庫(しょこ)から自動的にでてくる仕掛けです。地震のときに本だながたおれる心配がなく、教室の広いスペースは避難所(ひなんしょ)としても使えます。なるほど、と感心しました。これから本の電子化が進めば、未来にはこんな図書室ができるかもしれませんね。



緑色のじゅうたんの所は、一段高くなっているリラックススペース(下は収納)です。寝ころがって本を読んでもいいから、小さな子でも楽しく絵本が読めそうですね。図書室では集中して勉強するだけでなく、楽しく本を読みたい時もあります。使う人の気持ちをよく考えてくれた、すばらしいアイデアだと思います。



屋根(やね)まで作成してくれた力作です。格子(こうし)のドーム屋根はサンプルではなく、すべて手づくりです。格子の間の膜(まく)から人工芝に届く日ざしがつくる影(かげ)は美しく「色や形」だけでなく「光」もデザインできることを教えてくださいました。人工芝と2階観客席のある本格的なサッカー(フットサル)コートとなっており、町の人々のイベント利用も想定できる新しい体育館の提案です。

ジュースの販売機(はんばいき)を置いたリフレッシュルームがあるユニークな体育館です。授業で疲れたら休憩(きゅうけい)したり、体育館を使っているイベントのときに町の人と交流できる場所です。災害時(さいがいじ)には、避難(ひなん)生活を支える台所的にも使えそうですね。ステージ奥の黒い幕には、いろいろな紙をはり付けて、きれいにデザインしています。ステージ横の倉庫の色にも気を配ってくれました。明るくて気持ちのいい体育館です。

みんなの想いを活かした新しい学校を

日本ユニセフ協会と山形大学、竹中工務店は、みなさんの想いやアイデアを活かして、新しい学校(小中一貫校)をつくってもらえるように、町長さん他の関係者をお願いする予定です。

大槌町は少しずつ、でも確実に復興しています。これからの復興の主役は、みなさん。たいへんなこともあるだろうけれど、みんなで力をあわせれば、乗り越えられるはず。最初は「むずかしい」と思っていた模型づくりも、力をあわせて素晴らしいものを完成できたことに自信をもってください。これからも私たちは、みなさんをサポートしていきます。



仮設の小学校(正門前からの写真、1階平面図)

理科室



屋外実験ができるベランダ

屋外(おくがい)での実験ができるように、大きなベランダがあります。理科室の使い方をよく考えた、いいアイデアだと思います。壁(かべ)ぎわの青い家具は流し台でしょうか。水が飛んでもいいように、ほかとはちがう床(ゆか)にしてくれました。大きな緑色のテーブルと背もたれのあるイスを置いて、リラックスして勉強できる教室になりました。

マルチ室

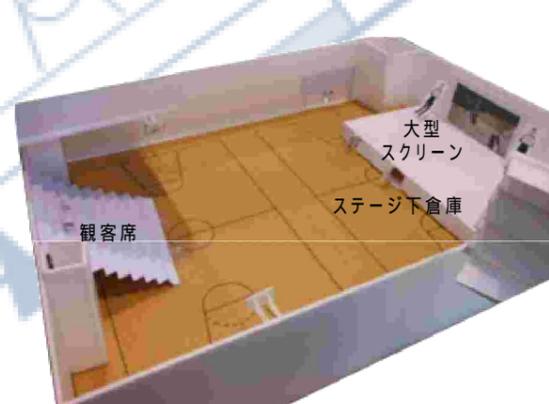


ボタンひとつで回転して4つの教室に変化します。「同時に2つの教室は使えないの?」といった、つっこみ所はありますが、くばられた材料の形にとられない自由な発想に感心しました。家具は壁(かべ)に固定して安全性も高めています。はじめは、時計を曲がった方の壁につけていましたが、回転のジャマになることに気づき、まっすぐな壁にうつして、教室ごとにデザインも変える工夫をしています。

体育館



「小さな人」をつくってくれたので、いろいろな運動での使い方をイメージできる作品になりました。卓球やバスケット(ダンクシュート!)の楽しそうな様子が伝わってきます。倉庫には、紙ねんどで作った力作のボールが、たくさん入っています。卓球台もサンプルにはなかった手づくり。途中で大きさがあっていないことに気づき、あきらめずに何度も作りなおしていたのに感心しました。



ひなだんの観客席(なんと、折りたたみ式)と、ステージうしろの大型スクリーンがあります。体育の授業だけでなく、学校行事や町のイベントといった、いろいろな使い方のアイデアがわいてくる体育館です。町の人にも使ってもらえれば、いろいろな人と交流できて楽しそうですね。ステージの下も、ちゃんと利用。防災(ぼうさい)用のふとんもしまっておける倉庫になっています。

第2回

2012(平成24)年10月31日(水) 10:20~12:15

体育館

佐藤教授から今日の作業の注意点についてお話がありました。グループごとに、みんなで話しあって「つくりたい教室」のイメージをふくらませ、レイアウトを紙にかいてみました。いよいよ模型づくり。あらかじめ用意された材料や家具のサンプルが配られました。グループごとに集まって作業です。広い体育館を目いっぱい使い、みんなで力をあわせて模型をつくりました。



第3回

2012(平成24)年11月14日(水) 10:20~13:15

体育館

佐藤教授から、今日で模型を完成させよう、とのお話がありました。なれない模型づくりはむずかしく、なかなか思うように作業は進みません。でも、模型ができてきて、自分たちの考えた教室の姿がみえてくると、みんなの集中力があがってきました。先生方もいっしょに手伝ってくださいました。全員が体育館にお弁当をもってきて、予定を延長して昼休み時間も作業を進めます。そして、全てのグループが模型を完成させました。





大槌の子どもだからできたこと

みなさんの想いがつまった、素晴らしい「未来の教室」ができました。
 楽しく勉強したり遊んだりできて、地震や火事でも安全・安心な教室がほしい。
 そんな、みなさんの気持ちが伝わってきます。
 授業の最後に芦澤先生が「むずかしかったひと?」「でも、面白かったひと?」ときかれましたね。最初に多くのみなさんの手があがりました。でも、ふたつ目の質問には、もっと多くのみなさんが手をあげてくれました。とても、うれしかったです。
 では、みなさんのアイデアがいっぱいつまった、18の模型をみてみましょう。

ふつう教室



休憩・昼食スペース

デジタル化をテーマにした近未来の教室です。家具のデザインや置き方も工夫してくれています。先生が板書(ばんしょ)されたことは、机(つくえ)のパソコンに映しだされるので、ノートをとる必要がなくなります。
 早く、こんな教室ができる時代がこないかな、とワクワクしますね。
 授業を受ける所とは別に、大きな休憩(きゅうけい)スペースがあります。休み時間に友だちと遊べて、お昼ごはんもここで、みんなで食べられます。
 デジタル化されても友だちとの交流は大事なんだ、という想いが伝わってきます。



ビーズクッション

ビーズクッションのイスで、リラックスして授業が受けられる教室です。でも、あまり気持ちいいからって、授業中に寝てしまわないように気をつけて。
 大きな家具は、たおれないように、壁(かべ)に固定されています。廊下(ろうか)を広くして、扉(とびら)ではなくカーテンで仕切ること、いざという時にもすぐ逃げられるように工夫されています。動かせる黒板は、避難(ひなん)生活時には間仕切りにもなります。
 災害時(さいがいじ)に安心な教室だから、ふだんゆったりとすごせるんでしょね。



休憩スペース

教室の前とうしろに黒板があります。2つあるから、前の授業のふりかえりができます。
 休み時間に友だちと遊べる休憩(きゅうけい)スペースも作ってくれました。
 大きな家具は壁(かべ)に固定したり、教室のそとに置くようにしています。ふだん勉強する所にはなるべく大きな家具を置かないようにすれば、部屋がすっきりするし、地震のときにも安全ですね。



教室の青いカーテンや廊下(ろうか)の3色のじゅうたんが、とてもきれいです。休み時間には、廊下の大きなテーブルに集まって遊ぶのでしょう。おしゃべりに花がさきそうですね。大きな家具は、ちゃんと壁(かべ)に固定されており、地震のときの安全性も考えてくれました。



休憩スペース

廊下(ろうか)に、休み時間に遊んだり、寝転んだりできる休憩(きゅうけい)スペースがある教室です。丸いテーブルが置いてあり、友だちで集まって楽しそうに遊ぶすがたが目にかびます。
 学校は勉強する場所であるのはもちろんですが、みなさんの生活の場所でもあります。だから、学校にリラックスできる場所をつくることは、大切なことだと思います。

図工室



教室の中にトイレがあります。え?と思ったけど、災害時(さいがいじ)には多くの人が生活するから、と教室ごとにつくってくれました。
 黒板のうしろに大きな窓(まど)と広いベランダがあります。屋外(おくがい)で行なう工作に使用して便利です。休み時間には、外の景色を見ながら休憩(きゅうけい)できて、いざという時には避難場所にもなります。
 ふだんのくらし方と災害時の使い方をよく考えた教室を作ってくれました。

ピンク色の大きな流し台がある図工室です。大人数でも、いっぺんに水道を使えて便利です。テーブルをきれいにおいて、出入口のドアもしっかり作ってくれました。
 黒板は上下のスライド式。前の学校にあって、よかったので再現してくれました。
 未来の教室だからって、なんでも変えるのではなく、今あるもので、いいものは残していくことも、大切なことだと思います。



流し台(水道)

アンパンマンの壁飾り(非常階段)



燃えないじゅうたん

黒板の横に、大きな「アンパンマン」の壁飾り(かべかざり)があります。よくできていますね。壁(かべ)の模様とオレンジ色のじゅうたんで、あたたかな感じの教室になりました。花瓶(かびん)やテレビも作ってくれています。
 実は、アンパンマンの口からは非常階段(ひじょうかいだん)がでてきて、じゅうたんは燃えない材料でできています。
 いざというときの準備を、楽しい形にするアイデアが、とてもいいと思いました。